

会 議 録 (要旨)

				記録者 中村 将大	
供 覧	部 長	課 長	課長補佐	主査・係長	グループ員
件 名	令和3年度第3回龍ヶ崎市市民協働推進委員会				
日 時	令和3年8月17日(火) 午後2時～午後3時				
場 所	龍ヶ崎市役所 本庁舎 5階 全員協議会室				
主 催 者	龍ヶ崎市市民協働推進委員会				
出 席 者	[龍ヶ崎市市民協働推進委員会委員] (9名出席) 根橋 正一 委員長, 佐藤 真智子 副委員長 加藤 洋平 委員, 深澤 幸子 委員 松田 百合子 委員, 馬場 英夫 委員 長江 敦子 委員, 大西 秀夫 委員 小林 克己 委員 [事務局] 坪井 龍夫 部長, 川崎 幸生 課長 関口 容子 課長補佐, 記録者				
欠 席 者	松原 卓朗 委員				
傍聴人の数	0人				
会議の内容	議 題 (1) 協働事業提案書に関する提言書(案)の作成について				
情報公開	公 開	非公開(一部非公開を含む)とする理由		龍ヶ崎市附属機関の会議の公開に関する条例第5条第3号該当	
	部分公開				
	非 公 開	公開が可能となる時期 (可能な範囲で記入)		年 月 日	

	発言の内容（要旨）
根橋委員長	<p>ただいまから、令和3年度第3回龍ヶ崎市市民協働推進委員会を開催いたします。本日は9名の委員の皆様のご出席をいただいておりますので、過半数に達しておりますので、会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。</p> <p>はじめに会議録の作成にあたり、会議録署名人2名の指名をさせていただきます。今回は、長江委員、佐藤委員にお願いします。</p> <p>お二人には、本日の会議録ができましたら、内容の確認をしていただき、会議録に署名をお願いします。</p> <p>なお、本日の会議は、協働事業提案書に関する提言書の作成となります。団体に対する不利益なご意見も含まれる可能性もあることから、非公開とさせていただきますが、その他の部分は公開となりますので、委員の皆様にはご了承願います。</p> <p>議題に入る前に事務局より前回の集計結果の訂正があります。事務局より説明願います。</p>
	—事務局説明—
根橋委員長	<p>それでは、議題に入ります。協働事業提案書に関する提言書の作成についてです。まず、お手元にお配りしてあります「龍ヶ崎竹灯籠アート『籠KOMERU』2023の開催」についての提言書（案）の協働事業効果審査書の総評欄をご覧ください。その後、ご意見・ご質問等を受けたいと思います。</p>
	—総評欄一読—
根橋委員長	<p>それでは、ご意見・ご質問等がありましたらお願いいたします。</p>
	<龍ヶ崎市附属機関の会議の公開に関する条例第5条第3号に基づき非公開>
根橋委員長	<p>それでは、ご意見も出尽くしたようですので、「龍ヶ崎竹灯籠アート『籠KOMERU』2023の開催」の提言書（案）について、終了とさせていただきます。事務局の作成した提言書（案）通りでよろしいでしょうか。</p> <p>—異議なし—</p> <p>それでは、事務局で作成した文書で提言書とさせていただきます。また、提言書につきましては、8月30日に市長に提出いたします。</p> <p>以上で、本日の議題は終了いたしました。</p> <p>続いて、その他の事項としまして、過日の第2回委員会でもありました協働事業提案制度に関する委員間での意見交換を行いたいと思います。時間は30分といたします。何かご意見ありますでしょうか。</p>
馬場委員	<p>協働という定義が昔と今では変わってきている。市民協働推進委員会にも若い人に入ってほしい。これからの時代は、SNSを使って地域課題を解決することになると思う。制度も始めて10年経過しているのでそろそろ制度を見直す必要がある。</p>
事務局	<p>協働の形は変わってきていると思います。協働事業とは違うが、地域コミュニティ協議会は各小学校区単位であり、市内で13地区全て設立されている。行政と市民団体という形ではなく、民生委員やPTAが入っているところもあり、市民同士が話し合える場合は地域コミュニティ協議会にはある。ただ、若い人の参加という意味では、PTAが協議会に入っていないところもあれば、入っていたとしても参加率が低いというような課題はあります。</p>

馬場委員	地域コミュニティ協議会を立ち上げるときに自分も関わっていたが、協議会を作ることで行政で本来やるべきことを市民に押し付けられたような印象があった。自助が大事だと言われる時代だが、自助にならないために公助があつてしかるべき。この委員会も今は協働事業提案制度の審査会としてしか機能していない。
深澤委員	以前守谷市に視察に行ったことがあるが、協働事業の提案件数が多く、全部長が出席して、提案事業について話を聞いている。近隣市町村の取り組み事例を勉強するような機会があっても良いのではないかと。
加藤委員	龍ヶ崎市の行政と市民団体での協働事業提案制度は限界が来ている。市民団体同士をつなぐコーディネーターのような仕組みが必要。
佐藤副委員長	団体のメンバーも高齢化している。今の若い人たちはボランティアをやる余裕がなくなってきている。若い人達がボランティア等に参加するような意識啓発が必要。
根橋委員長	新しい課題は多くあるはずだが、我々自身つかみきれしていないのかもしれない。行政から課題を市民活動をしている団体側に投げかける必要がある。
長江委員	3年前の行政提案で「オレンジカフェ」や「まごのて事業」というような将来の課題になるものを行政が市民側に提案していました。そういうものを行政が提案できれば良いと思う。そういった課題を解決するために起業したいと思うような人も出てくるのかなと思いました。
大西委員	提案制度は拡充していくべきだと思う。団体ではなくても、個人でも提案を受けていくべき。
松田委員	これからは個人の時代だと思う。個人でも提案を受けられるようにすべき。コーディネーターを誰がするのか。行政なのかボランティアなのかNPOに委託していくのか。個人の参加を募っていかないと若い人は取り込めない。
小林委員	昔は市民の要望に対して全て行政で対応することができていたが、今は全て対応できるだけの予算も人もいない。行政でやるべきこと、市民でやるべきこと、市民と行政が協働でやるべきことの明確な区別が必要になってくる。区別が明確になっていないまま協働事業を進めていても、市民側もそれは行政でやるべきことだと疑問が生じてしまうと思う。市のPRのために市民団体が竹灯籠をやるとうとしていることは良いことだと思う。ただ、最初の各団体とのコーディネートは行政側で行うべき。
佐藤副委員長	全て行政がやるべきではなくて、市民でできることは市民でやるべき。自分たちで解決できれば喜びも感じられる。
馬場委員	アイデア提案は個人で出せるものだと思うが、提案されたもので取り入れられたものはあるか。
事務局	アイデア提案は実を結んでいないということが実態であります。各課で今後の検討材料とさせていただいているものはあるが、具体的な実施までは至っていません。
長江委員	課題を解決することが現在の協働事業であるが、課題というマイナスの視点ではなく、プラスの視点での協働事業は考えられないか。例えばイベントを企画することとか。
事務局	課題解決型というのは行政側の都合であります。以前、市民活動団体の活動費を補助するという公募型補助金制度がありました。この制度も今ほど課題解決ということは前面に出していなかったのですが、公益的な活動に補助を出すということで記憶しております。賑わいを作り出すという意味では、必ずしもマイナスなイメージばかりではないので、各課と提案団体で実行委員会を作るというような協働は考えられると思います。

根橋委員長	<p>この市でもこの制度を大きく変えなければならない時期に来ているのかなと思います。いろいろな人が新しい時代の課題について問題提起し、話し合っていくことが大事なのではないかなと思いました。</p> <p>我々の任期もあと半年であるが、その間に何か具体的にどのような活動をした方が良いとかアイデアがある方はいらっしゃいますか。</p>
深澤委員	<p>他市町村の協働事業を研究して、龍ヶ崎市に合うか合わないか判断していくのはどうか。</p>
事務局	<p>他市の事例研究ということで学ぶということは良いことだと思います。ただ、この時期であるので視察に行くことは難しいかと思います。担当者とのメールでのやりとり程度では調査しにくいというのはあります。加藤委員の協力をいただけるのであれば、他市の事例について我々も調査、研究していきたいと思っています。</p>
松田委員	<p>1ヶ所だけでなく、いろいろな市町村を調査していくべき。取手市は継続可能事業に対して補助を出している。6年間補助はもらえるが、補助額が徐々に減っていく制度だったように記憶している。各市町村のホームページから情報を集めて皆で検討していくのが良いと思う。</p>
加藤委員	<p>龍ヶ崎近辺の市町村の方や千葉県の方とも個人的につながりができているので、そこを活用して調べたいと思う。お時間をいただいてまとめたいと思う。</p>
深澤委員	<p>今コロナ禍であるので、出かけていくことは難しいと思う。検討するための資料をいただければ良いと思う。</p>
長江委員	<p>3年前に協働事業提案制度に関するアンケート調査を行ったが、この制度を知らない市民団体の方も多かった。知らないという人でも制度を利用したいという人がいたので、広報にもう少し力を入れていただきたい。他自治体の協働事業を担当している人に話を聞くと、課題解決型よりも親睦型の提案が多いという話を聞いたことがある。他自治体でも龍ヶ崎市と同じようなことで悩んでいる。</p>
事務局	<p>市としては事業を市民にどれだけ周知するかは大事なことであります。市は広報紙やホームページに載せることで周知したつもりではいますが、市民の方に認知されていないことはあります。ステップアップ補助金も数年活用されていないこともありますので、広報紙に載せるだけではなく該当しそうな団体に直接話を向けていくようなやり方が必要になってくると思います。</p>
根橋委員長	<p>いくつかの自治体の実態を調査して、まとめて皆さんで話し合うような場を設けていただきたいと思います。加藤委員と長江委員と事務局を中心に情報を集めて、もう一度この委員会を開催して、議論して来年以降活かせるような提案をできればと思います。</p> <p>本日予定しておりました会議次第は、全て終了しました。</p> <p>また、次回の委員会については、令和4年3月を予定しております。議題としましては、昨年度採択いただきました令和3年度実施事業についての事業報告となります。日程等が決まりましたら、改めて通知させていただきます。</p> <p>また、今回の委員報酬につきましては8月27日に振り込み予定となっております。振り込み通知は配付いたしませんので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、以上で委員会を閉会いたします。お疲れ様でした。</p>

上記については、令和3年8月17日に開催した、令和3年度第3回龍ヶ崎市市民協働推進委員会の会議録に相違ない事を確認したので署名する。

令和 年 月 日

会議録署名人 _____

会議録署名人 _____